大久保分校の特色を生かした自主的実践的態度の育成

―― 友だちとの交わりの中で活動の楽しさが実感できる集会活動を通して ――

足利市立毛野小学校　大久保分校
砂川もと
国井　洋
上田晴子

Ⅰ．はじめに

本実践研究は，足小教研へき複分校部会として昨年11月に発表したものである。

さつまいもの収穫祭という活動は，単に学校行事として位置付ければ，ちょっとした田畑をもつ学校となんら変わらないものであろう。しかし，本研究は，それを生活科・学級活動という教科領域の中で，異学年の合同学習として成立させようと考えたところに特色がある。すなわち，この活動をそれぞれの児童の自主的実践的態度の育成をはかる場と考えたのである。

単に学校行事として行った場合，主体的に活動できる児童は一部の児童に限られてしまうことにならないだろうか。結局，多数の児童は受身的な活動になり，収穫祭の目的は間口の狭い，限られたものになってしまう。1年生も2年生も3年生も，この収穫祭を自分たちの活動として受けとめ，その喜びや楽しさを実感してほしい。そんな願いが，本研究の出発点になった。そして，より意欲的な活動を展開するためには，一斉の学校行事という位置付けより，それぞれの学年の教科・特活の学習として位置付けることが有効であると考えたのである。

一番頭を悩ませたのが，このような展開の場合の指導案の形式であるが，後述する指導案の形式で解決を図った。

本実践は，本校のような小規模少人数だから可能といわれればそれまでであるが，完全学校週5日制を迎えるべき時に，学校行事の精選，教科学習の充実を考える中で，より規模の大きい学校でも実践の可能性を残す内容であろうと自負している。

Ⅱ．研究の実際　～大久保分校1・2・3年合同学習活動はどのように展開されたか～

1・2・3年合同学習〈生活科・学級活動（1）〉活動案

平成7年11月20日（月）第5校時

1　活動名

さつまいもの　しゅうかくさいを　しよう

（1年・生活科「あきとあそぼう」　2年・生活科「あきまつりをしよう」
3年・学級活動「さつまいもしゅうかくさい」）

2　活動設定の理由

大久保分校は，周りを田畑に囲まれた自然豊かな学校である。学校には“尾名川農園”と名付けられた畑があり，児童が年間を通して野菜を育てている。本活動も，本年6月から児童が育ててきたさつまいもを収穫し，その収穫を祝おうとする活動である。

さつまいもは，6月下旬に1年生から3年生までが縦割り班となり，全員で協力しながら植え付けをした。また，収穫までには，水やり，草取りをし大事に育ててきたものである。したがって，収穫した喜びは大きいと思われるが，その喜びは，収穫祭を行うことでより大きく実感できると思われる。また，収穫祭の活動は，6月の“じゃがいも収穫祭”の経験もあり，子供たちの「やりたい」という声で始まったものであるため，全学年全クラス一緒に楽しく活動させることにした。

分校は，1クラス18人から21人の少人数のクラスであるため，何事を行うにも全校一緒に行っているが，本活動も1年生から3年生までを縦割りにした班で活動させ，お互いに協力し合った活動をさせたいと考えている。さつまいもを掘った畑には，すでに全学年でかきなや，キャベツ・ブロッコリーの苗植え，大根，ほうれんそう，豆類の種蒔きをすませている。この活動で，作物を育てる苦労の後には，大きな収穫の喜びがあることを実感させ，今後の栽培活動への関心や意欲を高めたいと考えている。

3 活動の目標

(1) 自分たちで育ててきた作物の収穫に対する喜びを味わうとともに，育ててきた過程を振り返り，今後の栽培活動への関心や意欲を高める。

(2) 縦割り班の仲間と協力して，楽しく祭りに参加することができる。

4 研究テーマとの関わり

本活動は，大久保分校の特色の一つである広い畑で，子どもたちがいっしょうけんめい育ててきたさつまいもの収穫の喜びを，子どもたちの発案で収穫祭を行うことにより，一層大きい感動を体験させようとするものである。しかし，子どもたちの発想で「ただ楽しければよい」という集会では，自主的実践的態度の育成は多くを望めないであろう。子どもたちの発想で収穫祭を開くという段階は，“自主的実践的態度の育成”の第一歩であると考え，この集会を各学年それぞれの教科領域の授業として成立させることで，その育成の深まりを考えた。

第一に，この活動のめあてを，各学年に応じて位置付けた授業のねらいと照らし合わせて作成した。それを活動の当初に確認することで，めあてに対する意識を高め，進んで集会に参加しようという態度を育てようと考えた。第二に，収穫祭のプログラムの中で，各学年の児童が中心的に活躍できる場を設けることで，いつも受け身ではなく，主体的に集会に参加するという意識を期待しようと考えたものである。

また，大久保分校のもう一つの特色といえるのは，各学年とも少人数のクラスで，全児童58名ということである。少人数であることによる長所は，児童サイドでいえば，学年のわくを越えて知り合え，名前を呼び合える仲良しになれるということであろう。また，教師サイドでいえば，一人一人の児童の実態を的確に把握しやすく，個にあった指導がしやすいということである。それはまた，児童一人一人の活動の場を確保しやすく，生き生きとした活動をさせやすいということができる。

しかし，各クラスとも少人数であるということは，逆に人間関係が固定しやすいという短所も持つ。そこで，この活動もクラス・学年のわくを越えた“縦割り班”で活動させることにした。その活動は，教えられたり教えたり，できる子からできない子への励ましがあったりしながら，人間関係も深まりが期待できる。またそれは，本時の，ゲームをしたり，踊ったりする活動の中で，協力してチャレンジする楽しさを味わわせることにもつながるであろう。

本校の研究実践の中でも，さつまいもの収穫祭といえば，子どもたちの興味関心の高まりが期待でき，活動の楽しさを実感させやすいと思われる。6月のじゃがいもの収穫祭がそうであったように，そのいもを食べるという活動を入れたことは，活動の楽しさを増大させるはずである。友達と一緒に集会を楽しみ，その喜びを実感できるように，活動を構成していきたい。そして，これからもいろいろな集会活動を経験したい，進んで参加したいという態度の育成が図られればと考えている。

⑵　2学年・生活科

①　単　元　名　　あきまつりを　しよう

②　単元の目標

ア　季節の変化に関心をもち，校庭等で秋らしい様子をさがし，春や夏と比べて違っていることを見付けことができる。

イ　さつまいもの収穫を喜び，収穫の祭りを楽しむことができる。

ウ　収穫祭の計画を立て，友だちと協力して準備をしたり，片付けたりできる。

③　児童の実態

児童は，6月にじゃがいもの収穫祭を縦割り班で行い，歌ったり，踊ったり，ゲームをしたりして楽しさと充実感を味わった経験を持っている。そして，11月には，さつまいもの収穫祭を同様に行うことを楽しみにしていた。また，昨年2年生が計画した収穫祭に参加し，お店で遊ばせてもらうなどの経験がある。

2年生の生活も後半に入り，児童は，日常生活における関わりが強くなり，グループで活動することを好むようになっている。縦割り班の中においても，2年生は中間的存在であるが，「3年生のようにはやれないが，自分たちの役割を一生けん命果たしたい」という意欲を十分に持っている。

そこで，本単元においても，今までの経験をもとにしたその子なりの考えや願いを大切にし，意欲を持って一人一人が十分に活動できるように配慮していきたい。

④　活動計画　　～略～

⑤　本時の活動

ア．ね　ら　い

・友だちと力を合わせてゲームのお店を行い，祭りを楽しむことができる。

・楽しい祭りの活動を行うことで収穫の喜びを味わう。

イ．同和教育の視点

・縦割り班のみんなと仲良く祭りに参加する。

ウ．展　　開　　－※別　紙－

エ．評　　価

・みんなと協力して準備をしたり，祭りを楽しんだりしようとしているか。　　（関心・意欲・態度）

・ゲームのお店で自分の役割を果たすことができたか。　　（思考・表現）

⑶　3学年・学級活動

①　活動のテーマ

さつまいもしゅうかくさい

② ね ら い

・収穫祭の活動の一部を学級で計画し，実行していく中で，学級の仲間意識を高めることができる。

・計画したさつまいもの収穫祭を，友達と協力しながら，下級生のことも考えて楽しく実行できる。

③ 同和教育の視点

・縦割り班のリーダーとして，同学年の友達とはもちろん下学年の行動を思いやり，優しく接する。

④ 児童の実態

3年生になり，半年を過ごした児童は，購買当番の活動や縦割り清掃班・飼育当番の班長，登校グループのリーダーとしての活動等を通して，分校のリーダーとしての意識も育ってきている。また，休み時間や放課後に下学年と一緒に名前を呼び合いながら遊んでいる場面が見られ，学校生活の中で学年間の交流は，盛んであると言うことができる。

これまでに，3学年合同で行う集会で3年生がリーダーシップをとる集会は，小さいもので隔週木曜日に行われている“児童集会”があり，大きいものでは5月に行われた“分校運動集会”，6月の“じゃがいも収穫祭”また，10月に行った“縦割り遊び集会”“分校ふれあいの広場”などがあった。1学期のうちは，実際にリーダーシップをとるという場面で，どう行動しようか，何と声をかけようかと戸惑う場面も見られたが，今では，確かに分校最高学年としての自覚が芽生え，実際に下級生のリードをとるという場面での行動に頼もしさも感じられるようになってきた。

また，分校全体で行う集会には関心が高く，今回の収穫祭でも，「さつまいものキャラクター募集」「さつまいもの替え歌」「収穫祭のポスター」などの活動には，積極的に意欲をみせている子も多い。

児童は，3年生としてリーダーシップを発揮したいという意欲もあるし，分校全体の集会をより楽しいものにするためは自分たちががんばらなければならない，という責任感も出てきている。集会の成功のためには，学級の話合いをしっかりするなど，学級のまとまりを強くしなければならないことに気付かせ，事前の活動からこの収穫祭までの活動が，学級のまとまりに良い影響をおよぼすように配慮，支援していきたいと考えている。

⑤ 展開の過程

ア．事前の活動

11月 2日（木） 学級活動・話合い「さつまいものしゅうかくさいを　計画しよう」

9日（木） 学級活動・話合い「さつまいもの歌を作ろう」

16日（木） 学級活動・話合い「し会のせりふをみんなで考えよう」

イ．本時の活動　　－ ※ 別　紙 －

ウ．事後の活動

・翌日の朝の会で，質問紙法による個人の絶対評価を行う。

・反省会も開き，じょうずにとれたリーダーシップをお互いに認め合わせたい。

⑥ 評　　価

・下級生のことも考えて活動し，楽しく活動できたか。

・自分たちで企画した部分について，よりいっしょうけんめいに活動できたか。

・この活動への参加で、どれだけ満足できたか。（質問紙〈略〉法による）

※別紙

本時の活動（活動の展開）　～活動への留意点・支援～

活動の展開〈5つの活動の展開と同じ〉	〈第1学年〉活動への留意点・支援
Ⅰ　さあ，始めようタイム	◎この集会のめあてを事前に確認しておき，はじめの言葉をしっかり聞かせるようにする。
1　はじめの言葉　（3年児童）	
2　さつまいも物語　（各学年分担）	・1年生は“さつまいも苗の植え付け”についての絵と作文を担当するが，大きな声で発表させ，植え付けから行った栽培について振り返らせたい。
3　今日やることについての約束（教師）	・自分たが集めた落葉で焼きいもを作ることによって，一人一人が参加している意欲を持たせると共に秋の季節感を感じとらせたい。
Ⅱ　はやく　やけてタイム	
1　点火の式 （班代表3年児童と教師）	・たき火の火には近づいたり，いたずらしたりしないよ
2　さつまいもの歌 （歌は募集して3年児童が作成）	◎自分たちも考えたさつまいもの歌であるので，元気よく歌えるようにする。
3　みんなで踊ろう （踊り担当 1年児童）	◎さつまいもの踊りは，6月の経験をもとに事前に1年生の自由な発想でつくらせていきたい。受け身になりがちな1年生にも，中心になって活動することで，集会を一緒につくっているという主体的な気持ちを持たせたい。
4　ゲーム（ゲーム担当 2年児童） ・くじ屋・いもつり屋・いもわなげ屋	・上級生と一緒に2年生の準備したさつまいもに関係するゲームをする中で，仲間みんなで喜び合える楽しさを実感させたい。 ○自分からいろいろなゲームに行けない児童や，何でも教師に頼りがちな児童に対して，同じ班の上級生と一緒に行動することを助言する。
Ⅲ　おいしくたべようタイム	
1　焼けたかな	・自分勝手にせずに，仲良く楽しく食べられるよう子どもたちの中に入り，一緒に活動したい。
2　いただきます	・食べている間に活動の感想，いものおいしさなどをイ
Ⅳ　おわりにしようタイム	・班ごとに集合し，落ち着いた雰囲気の中でⅣの活動をする気持ちを深めさせたい。
1　ごちそうさま 2　校長先生のお話 3　終りの言葉　（3年児童） 4　後片付け　（各学年相応に）	・後片付けは，1年生はごみ箱やのぼり，2年生はゲ守りたい。

○同和教育上の配慮事項　◎研究テーマと関わる配慮事項

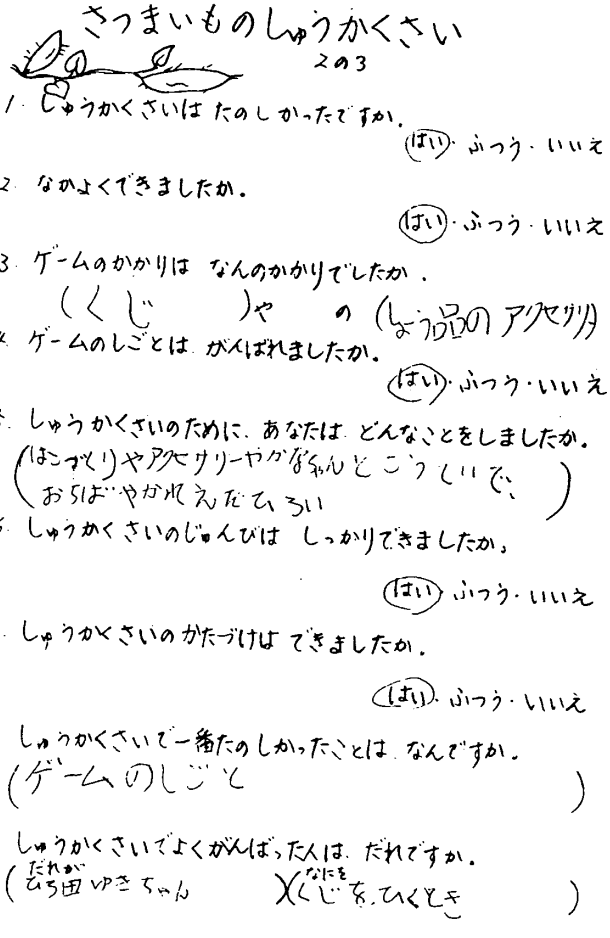
〈第2学年〉活動への留意点・支援	〈第3学年〉活動への留意点・支援
◎事前に本時のめあてを話し合わせておき，2年生のめあてを持って，本時に臨ませたい。 ・2年生は“さつまいも掘り”の場面を担当するが大きな声で発表させ，聞いている子にも収穫の喜びを思い出させるようにしたい。 ・安全に活動できるための約束であるのでしっかり聞かせたい。	◎司会，開会や閉会時に役割を持った児童には，元気よくできるように励ましてあげたい。また，その子だけの言葉で終ることのないように，その言葉は事前に学級活動で話し合いの上決めさせたい。 ◎めあてについてしっかり確認させたい。 ・3年生は“育てる”場面を担当する。その苦労を思い出させるような作品にさせ，収穫の喜びを新たにできるようにさせたい。 ・教師から聞く約束は，活動のリーダーとしての3年生に欠かせないことなので，真剣に聞かせる。
うに留意する。	・みんなのいもがよく焼けるようなサークルを3年生が作る。当日午前中に準備させておく。点火の式ではトーチを持つ児童の安全に十分留意し，その後も焼きいもを焼く火には十分留意させる。
・自分たちも考えたさつまいもの歌であるので，元気よく歌わせ楽しい雰囲気を盛り上げたい。 ・1年生がつくった踊りを恥ずかしがらないで踊れるよう，教師も一緒に踊りたい。 ◎ゲームのお店をグループごとに出させるが，一人一人の仕事の分担をはっきりさせ，活躍の場を設けたい。 ・やり方の説明をしている子，お客さんの面倒をよく見ている子をほめ，意欲を持たせる。 ○お店の仕事をしないでいる児童には，自分の分担を思い出させたり，必要な仕事は何かを考えさせたりする言葉かけをする。 ・食べ方の決まりを守り，1年生を思いやって食べるように指導する。	◎さつまいもの歌は，事前に3年生が企画募集し作成したものを歌うようにさせる。事前に歌詞カードを書くまでの仕事も児童に任せる。 ・踊りを考えた1年生に対して敬意を持たせながらそれを楽しもうとする態度がとれるようにしたい。 ・ゲームを企画した2年生のアイデアに感心しながら楽しむことができるように，近くに入って声をかけながら見守りたい。 ・焼けたいもは，3年生が班のみんなのをていねいにとってあげる。
ンタビューし，感想を述べさせる。	○あまり活躍の場がなかった子に声をかけたい。
行うことで，楽しかった収穫祭を振り返り，実りに感謝	・ごみを散らかさないように,自分だけでなく下級生のことも考えて,落ちているごみにも注意させ,気持ちよいごちそうさまをさせる。
ーム用品，3年生は火の始末というように分担し，最後まできちんと，能率よく進められるように，励ましながら見	

6 評価と考察

各学年の評価はここでは省略するが，3年生の行った質問紙の結果や，1・2年生の感想カードによれば今回のさつまいもの収穫祭は，6月に同じように合同学習で行った“じゃがいもの収穫祭”の時の児童の満足度より多少評価は落ちた。その理由は，ひとえに今回の活動が雨天のために室内活動に終わったことで，児童が大きな楽しみとして準備を進めていた校庭での焼きいもが，室内でのふかしいもに変更になったことによる。せっかくのことであったので，翌日に校庭で行った“焼きいもパーティ”では，「ふかしいももおいしかったけど，この焼きいものほうがすごくおいしい。」とか「やっぱり，外でやる収穫祭のほうが楽しいかった。」とかいう感想が多く聞かれた。

結局，こちらが「単なる学校行事よりは，教科領域の学習としての成立を」とか真剣に考えていても，児童にとっては単にその活動から得られるダイレクトな喜び・楽しさ・満足感がすべてなのだ，と感じさせられた。しかしながら，今回の活動をそれぞれの学年の学習として成立させようとしたことは，より意欲的な児童の活動を引き出し，そこから実感できる楽しさは明らかに増し，生活科・学活としての学習の成立もより効果的であったと考える次第である。

〈児童の反応〉



さつまいものしゅうかくさい
2の3

1. しゅうかくさいは たのしかったですか。
(はい)・ふつう・いいえ

2. なかよくできましたか。
(はい)・ふつう・いいえ

3. ゲームのかかりは なんのかかりでしたか。
(くじ　　)や　の(しょう品のアクセサリ)

4. ゲームのしごとは がんばれましたか。
(はい)・ふつう・いいえ

5. しゅうかくさいのために、あなたは どんなことをしましたか。
(はこづくりやアクセサリーやがくぶんとこうしいで、おりばやかれえだひろい)

6. しゅうかくさいのじゅんびは しっかりできましたか。
(はい)・ふつう・いいえ

7. しゅうかくさいのかたづけは できましたか。
(はい)・ふつう・いいえ

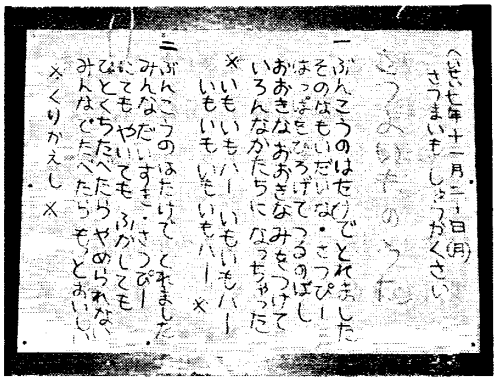
8. しゅうかくさいで一番たのしかったことは なんですか。
(ゲームのしごと　　)

9. しゅうかくさいでよくがんばったひとは だれですか。
(だれが ひろ田ゆきちゃん　　なにを くじをひくとき　　)

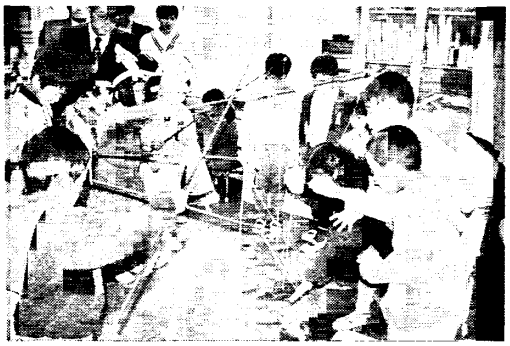
7　参観者の感想と活動の様子

(1)　活動について

- 活動展開が児童の手で行われ，活動の中に創意工夫がみられ，まさに主体的活動だった。
- それぞれの学年がつくり出し，中心になって活動が進められるところがあってよかった。
- 各学年のめあてを掲示したことにより意識が高まり，それが意欲の向上につながったようだ。
- 副題の“楽しさが実感できる集会活動”ということがよく表わされていた。
- “自然に親しみ，体験を重視した学習”に感動した。
- とても楽しいいろいろなことが盛りだくさんで，本当に45分だったかと思った。



- 子供が元気に活動していて，こんな楽しい授業は，少人数でなければできないだろう。



- 雨天というハプニングにもかかわらず，全体の進行がきちんとしていた。
- あいにくの雨であったが，室内での計画も用意され，素晴らしい授業公開だった。
- 青空の下で，サツピーの大合唱が聞きたかった。
- 天候が良く外でできればもっと楽しい活動になっただろう。

(2)　児童について

- 児童が自分の役割をよく理解し，3年生がよくリーダーシップをとっていた。
- 大きな声でのびのびと歌って踊る表情は，本当に楽しそうだった。
- 一人一人の児童が伸び伸びと意見を発表し，何をしたらよいか迷う子がいなかった。
- 児童が意欲的に授業に取り組む姿に感心した。

(3)　教師の関わりについて

- 授業の流れがよく，発問・助言がよかった。
- この日までの準備，数多くの教材作りに驚かされた。
- どこまで指導したのか，歌・踊り・ゲームなど素晴らしい企画力だ。
- 集会を開くためのきめ細かな指導の工夫や素晴らしいアイデアがあちこちに見られた。
- 先生方と児童がとけ合っていて，ほのぼのとした雰囲気だった。

Ⅲ．終　わ　り　に

参観者の先生方からは，上述の通り身に余るお褒めの言葉ばかりいただいた。ややもすると，それに満足し，研究がここで停滞しかねない。今，心新たに，本研究が本活動だけにとどまらず，今後にも継続した実践研究を行い，冒頭のテーマにある「自主的実践的態度の育成」をめざしていきたいと考える次第である。

評

新しい学力観の中心的な教科として登場した生活科は，実施4年目を迎えてこれまでの実践から得たことをもとに，見直しとさらなる充実が求められています。着実な実践へのポイントとして，生活科を「総合教科的な学習」ととらえ，地域に根ざす「育てたい子供像を明確にした」実践をしていく必要があります。

本実践は，地域の特性，分校の特色を積極的に生かし，児童相互のかかわりを重視した集会活動を通して，児童の自主的，実践的態度の育成を目指した研究です。その特色は，生活科・学級活動という教科・領域の中で，異学年の合同学習として総合活動の考え方を取り入れて構想し，児童の自主的，実践的態度の育成を図り新しい方向を示唆する先導的な実践事例です。

以下の3点にその成果としてまとめてみました。

1　1年生，2年生は生活科として，3年生は学級活動として各学年の位置付けを明確にするとともに，本活動の「さつまいものしゅうかくさいをしよう」は，「生活科・学級活動（1）活動案」として，教科領域の関連を図って計画されています。

2　生活科は，具体的な活動や体験を通して，学習や生活の基礎的な能力や態度を身に付け，よりよき生活者として自立への基礎を養うことをねらいとしています。一方，学級の集会活動においては一人一人が知恵を出し合い，工夫し協力しながら作り上げる楽しい学習活動の一つであり，多様な集会活動を計画的に体験させることは所属感や連帯感を育み，自らの工夫により生き生きとした生活を生み出す事を体験を通して学ぶことでもあります。生活科・学級活動の目標，特質を十分に踏まえ，生活科と集会活動との独自性を生かし，児童の意欲的な活動を展開する工夫が十分になされたものです。

3　大久保分校ならではの，1,2年生の生活科の発想を生かして展開された本活動と3年生の児童の手で企画された学級集会活動としての本活動は，ともに児童一人一人の中では一体化しているものであり，児童の願いや喜び，楽しさを大切にした子供の立場に立っての活動の構想がなされています。

この本研究は，教科・領域の一層の充実，まじかに迫った学校週5日制完全実施等を見据える中で，学校の規模にかかわらずどの学校にも参考となるものと確信いたします。